

平成25年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	ユネスコ会議関係共通経費		担当部局庁	国際統括官付		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	昭和27年度・未定		担当課室	国際統括官付		国際統括官付 国際戦略企画官 榎井 圭子		
会計区分	一般会計		政策・施策名	豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進 XIV-2 国際協力の推進				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	ユネスコ活動に関する法律(第3条)		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)主催の国際会議に出席し、我が国が必要な提案や発言等を行うことで、ユネスコ活動への積極的な貢献を果たす。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ユネスコでは定例の国際会議(ユネスコ総会、執行委員会等)の他、教育、科学、文化、コミュニケーションに係る国際会議を各国の希望に基づき、当該国がホストする形で不定期に開催している。本経費は、これらの国際会議への出席に必要な経費である。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	17	17	17	17	17	
		繰越し等	0	0	0	0		
		計	17	17	17	17	17	
	執行額	12	15	14				
	執行率(%)	68.6%	91.1%	79.8%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	ユネスコ主催の国際会議へ出席するための経費であり、定量的な成果指標の設定は困難			-	-	-	-	-
	達成度		%	-	-	-		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	出席会議数			件	15 (15)	11 (11)	15 (17)	- (11)
	単位当たりコスト		0.9百万(円/件)	算出根拠	= 予算執行額(14百万円) ÷ 出席会議数(15件) ※平成24年度			
平成25・26年度予算内訳	費目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	職員旅費		1.6百万円	1.6百万円				
	庁費		1.7百万円	1.7百万円				
	諸謝金		0.8百万円	0.8百万円				
	政府開発援助諸謝金		1.4百万円	1.4百万円				
	政府開発援助職員旅費		5.7百万円	5.7百万円				
	政府開発援助委員等旅費		0.3百万円	0.3百万円				
	政府開発援助庁費		5.8百万円	5.8百万円				
計		17.2百万円	17.2百万円					

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	ユネスコ主催の国際会議に出席し、我が国が必要な提案や発言等を行うことで、ユネスコ活動への積極的な貢献を果たすとともに我が国の意見を反映させることを目的としており、優先度が高い事業であるとともに、国としての対応が求められている。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
事業の効率性	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		—	ユネスコ主催の国際会議出席に当たっては、ユネスコ日本政府代表部の協力を得て、出張者数を抑制するなど単位当たりコストの削減に努めるとともに、その業務の特殊性から真に必要な内容に厳選した上で、支出を行っている。 不用率が大きい主な理由は、ユネスコが作成する文書が年度内に仕上がらなかったことによる和訳等のための庁費及び諸謝金の不用によるもの。今後は、事業のより効果的・効率的な執行の観点から、執行の計画・管理に努める。		
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		—			
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	ユネスコの次期中期計画案及び事業・予算案の策定に向けて、ユネスコ執行委員会及びアジア・太平洋地域のコンサルテーション会議等に出席し、我が国としての主張を行い、プレゼンスを示した。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
重複排除	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	—		
	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	ユネスコ主催の国際会議において、我が国が必要な提案や発言等を行いユネスコ事業に関する影響力を持ち続けるために、効果的・効率的な執行の観点から、出席する会議と出席者を戦略的に精選し、引き続き本事業予算を適切に執行するよう務める。					
	外部有識者による点検対象外					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業内容の改善	<p>1. 事業評価の観点：本事業は、ユネスコが開催する定例及び不定期の国際会議に出席するために必要な経費であり、予算執行状況、長期継続事業及び契約・執行手続きの観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見：本事業は、平成24年度決算において不用額が生じているものの、平成26年度概算要求においては、不用額が生じた要因を分析した上で、計画的な予算執行に努めるべきである。</p>					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
執行等改善	本事業については、ユネスコが開催する定例及び不定期の国際会議に出席し、我が国として必要な提言や発言等を行うものであるが、不用額が生じた主な要因が、年度前半に予算の執行抑制があったため年度後半の執行計画を見直したところ、ユネスコの会計年度は1月から12月のため、日本の年度末(1~3月)に予定されていた会議出版物が最終的に4月以降に延期されたことによるものであるが、平成25年度については、より効果的・効率的な執行の観点から、できる限り早期の実施を図るなど、より計画的に作業を実施することにより、着実な執行を図っている。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0417	平成23年	0022	平成24年	0016

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文部科学省
14百万円

旅費 7百万円
庁費 5百万円
諸謝金 1百万円

ユネスコの定例の国際会議(ユネスコ
総会、執行委員会等)及びその他教育、
科学、文化、コミュニケーションに係る
国際会議に出席。

※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)